

委員	整理番号	資料名	頁	項目	質問内容等	その場での回答	回答・処理方針
山崎委員	1	資料2-4 再評価説明 資料	p.8 p.30	スマート農業 自動給水栓	自動給水栓の効果をもっと強調しても良いのでは。 ただ今後、遠隔操作による細かい水位操作によって自動給水栓の設置前後で生産量や品質変化の検証、細かい水位操作による節水が出来るのか継続モニタリングにより、導入コストが高いので過剰な投資になっていないか確認をすること。	一番の効果は、細かい水位操作より直接現地に行かなくても水位管理が出来るため、水管理にかかっていた労力を他の作業に回せることが労力軽減に繋がっていると営農者から伺っています。また、節水効果はかなりあると思っています。モニタリング調査については、今後検討します。	遠隔型自動給水栓についての効果検証については、今後検討します。
諸泉委員長	2	資料2-4 再評価説明 資料	p.8 p.30	スマート農業 自動給水栓	現地で自動給水栓の効果は検証していないのですか。	費用対効果分析はフロート式、遠隔操作型を含め行っています。	営農者への聞き取り調査による自動給水栓の効果は検証していないので、今後検討します。
佃委員	3	資料2-4 再評価説明 資料	p.17 p.40	みどり認定	みどり認定は米生産に付加価値をつけ高く売れる環境になるので検討して頂きたい。	今後、検討します。	地域の情報を収集します。
中田委員	4	資料2-2 再評価基礎 資料 資料2-4 再評価説明 資料	p.61 p.44	環境との調和 モニタリング調査結果	資料2-2はモニタリング調査結果が添付されているが、資料2-4にも添付してはどうか。		御指摘を踏まえて添付しました。
中田委員	5	資料2-2 再評価基礎 資料 資料2-4 再評価説明 資料	p.61 p.44	環境との調和 モニタリング調査結果	マツカサガイはタナゴの産卵場所になると同時に、稚貝は別の魚に寄生しないと育たない。寄生できる魚と潜れる様な砂がないと定着できないが、保護する場所はどこになるのか。	工事区間にマツカサガイが1,000個体程度確認されています。工事実施となった場合に、一時的に通水しなくなる期間が発生する可能性があるため、近くのため池が一時的な避難場所として適切な場所かどうかの畜養試験を今年から実施しています。	今の生息場所から、少し離れたところにあるため池2箇所で生息確認試験を行っており、死滅する様なことがなければ工事期間中の一時退避場所として考えています。
中田委員	6	資料2-2 再評価基礎 資料	p.61	環境との調和 モニタリング調査結果	危険分散のため、複数個所で試験を行う必要はないのか。	他地区でも同様の畜養試験を行っており、成長度合いが異なるが、本地区は生き延びるかどうかの試験を行っています。	工事期間中の退避場所であり、工事完了後、元の水路に戻す様に考えています。
中田委員	7	資料2-2 再評価基礎 資料	p.61	環境との調和 モニタリング調査結果	スクミリンゴガイがモニタリングの対象種に入っていないませんが、当地区には事業前に生息していなかったのか。	地元農家の話では、何年前からかは不明ですが、以前はいなかったところまで広がっているようです。	当初計画時点の環境配慮計画の調査結果ではスクミリンゴガイが確認されていませんでしたが、その後広がってきています。そのため、スクミリンゴガイは外来種として環境配慮計画に位置付けます。